

平成23年度 【 学園研究費助成金<A> 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ ワキタ ヤスコ
氏名 脇田 泰子

研究期間 平成23年度

研究課題名 地域連携によるメディア教育モデル構築の研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	脇田 泰子	文化情報学部	准教授
研究分担者	栢窪 優二	文化情報学部	教授
研究分担者	松山 智恵子	文化情報学部	講師

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字~300字程度で記述)

動画共有サイトや映像のネット配信など、情報通信技術 (ICT) を駆使した情報発信は今や日常的な風景で、メディア教育面での重要性も極めて高い。しかし、日本の大学で映像制作やWeb発信による次世代型メディア教育は、依然として模索傾向にある。本研究は、地域連携をテーマにハイビジョン映像作品を制作し、Web 公開する取り組みを通じ、地元社会との繋がりを深める総合的メディア教育を実践し、学士力の確保や職業的自立能力の向上を図る次世代型教育体系の確立を目指している。過年度、既に地域連携プロジェクトを複数立ち上げてきた実績を受け、今年度はその総合的な分析・評価を行い、地域連携型メディア教育モデルの構築を目的とする。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

- 1) 本学部の卒業研究指導等向けに地元企業や行政との連携を通じ、地域貢献に値する映像作品を企画・制作、Web 発信までの総合的メディア教育を実践する。今年度は名古屋市東山動植物園、名古屋市科学館、中部電力(株)(デザインの間)と共同の教育プロジェクトを推進。椋山歴史文化館の紹介では、学園広報の視点から“発信する大学”としての実践にも取り組む。
- 2) 教育実践のプロセスや成果について、連携先や履修学生にヒアリングとアンケートの調査を実施し、映像制作を通じた地域連携型メディア教育のメリット、問題点、課題を分析・評価する。なお今年度、本学が名古屋市科学館と映像制作を軸にした連携・協力の覚書を交わしたことに基づき、本研究では、それに沿った学生指導による分析・評価データの収集にも努めていく。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

完成作品の質は、指導教員の視点から「目標レベルに達していた」と判断された後に、東山動植物園（教育ビデオ制作）と中部電力㈱（「デザインの間」広報ビデオ制作）の担当者にヒアリング調査を実施した。企画意図、構成、映像、カメラワーク、ナレーション、音楽、総合評価の全項目で「良い」という回答を得た。また「取材・撮影にかかる時間が意外に短く、現場の負担は軽かった」、「作品の完成度に満足している」、「地元（学生）との連携が強調できるメリットがあり、今後も継続したい」といった意見も寄せられた。連携・協力先の評価であり、必ずしも客観的とは言い切れない部分を差し引いても、企業や行政の求める期待に応えられたことは確認できた。学生対象のアンケート調査でも殆どの学生が「この授業に満足している」、「履修して良かった」と回答した上で、「制作は難しかったが、満足できる作品を完成できて良かった」、「制作を通して地元の人との連携意識が高まった」、「地域に貢献する情報を発信できて達成感が得られた」など、充実した手応えの感じられる記述が多々、見られた。

完成作品は大学や連携先のサイトで Web 公開されている。学部サイトをアクセス解析ツール、Google Analytics で解析したところ、平成 23 年 6 月末時点で「高蔵寺ニュータウン物語」がページビュー数 2423 で最も多く、「視覚障害者と本をつなぐ～図書館サービス最前線」が 2 番目に多かった。いずれもアクセス数の集中時期が、動画公開の新聞記事掲載のタイミングと一致することがわかった。その一方で、アクセス数の伸びていない動画もあり、今後の課題を浮き彫りにした。これまでの実績から平成 23 年 11 月、本学は名古屋市科学館と映像制作を軸とするメディア教育の連携・協力の覚書を交わした。地域連携メディア教育の新たな枠組みが整うとともに、その構築に向け、大きな節目を迎えることになった。平成 24 年春には、東山動植物園と共同制作する Web サイト「バーチャルひがしやま動植物園」（暫定版）も公開予定で、映像制作を中心にした地域連携メディア教育モデルの構築は集大成期に入っている。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①地域連携	②産学官連携	③メディア教育	④インターネット
⑤映像制作	⑥教育ビデオ	⑦広報ビデオ	⑧動画配信

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

研究成果の一部は、下記の学会、論文、及び Web サイトで報告・披露する。

- 1) 柗窪優二、松山智恵子、脇田泰子、「大学と地域との映像制作連携の試み—東山動物園プロジェクトの報告」、日本教育メディア学会第3回研究会、2012年2月18日
- 2) 柗窪優二、松山智恵子、脇田泰子、小川真理子、亀井美穂子、「地域連携によるメディア教育モデル構築の研究」、椋山女学園大学研究論集第43号(社会科学篇)2012、2012年3月(発行予定)
- 3) Web サイト「バーチャルひがしやま動物園&植物園」(暫定版)、椋山女学園大学 文化情報学部サイト、2012年3月(公開予定)